

(1)

# 2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

精華	中学校区	校番 34	福山市立金江小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月1日	

## I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

## II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <p>熟議のテーマ</p> <p>第1回「学校の経営方針」等</p> <p>第2回「地域が育むこれからの時代を生き抜く子どもとは」</p> <p>「地域でこそできる学びは」</p> <p>第3回「地域理解を深める学校教育の推進～地域で何ができるだろうか」</p> <p>第4回「次年度に向けて地域とともにつくる学びを」</p>
---

<p>児童生徒の現状</p> <p>○自己肯定感が高く、素直に真面目に取り組む姿がみられる。</p> <p>○自分の考えをもち、分かりやすく他者に伝えようとする意欲をもち自己表現している。</p> <p>○地域の方とかかわりたいという気持ちが育ちつつある。</p> <p>▽自己理解に乏しい面がみられ、主体的な活動につながっていない。</p> <p>▽学ぶことに対して、自ら向上心を持って何かに取り組もうとするまでには至っていない。</p>
--

育成する資質・能力	【主体的に学ぶ力】【思考力・判断力・表現力】【自己形成力】
めざす子ども像(義務教育修了時の姿)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り拓く子ども</li> <li>・自己肯定感が高く、地域に愛着と誇りをもち、社会に貢献できる子ども</li> </ul>
中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力分析と授業研究を通じた「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。(授業づくり部会)</li> <li>・「自分で選び・決める」活動に取組み、思考力・判断力・表現力を育成する。(プロジェクト部会)</li> <li>・児童生徒の自己肯定感と自己有用感を向上させ、自己形成力を育成する。(生活習慣向上部会)</li> </ul>

## III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>共に高まる たくましい子の育成</p> <p>～ 学びをつなげる チャレンジを続ける ～</p>
---

<p>現 状</p> <p>&lt;児童&gt;</p> <p>まじめに学習に取り組む、基礎的な力を付けてきている。また、学習や行事などにおいて、目標を立てそれに向かって頑張ろうという気持ちをもって取り組んでいる。児童会や委員会の企画を自分たちで考え、「楽しい学校に」「よりよい学校に」していこうという意識が高まってきている。しかし、固定化された学級集団の中で、自分の考えを言葉で表現しなくても理解してもらえると考え、自分の思いや考えを分かりやすく伝えようというところまで至っていない。自分の考えを表現することだけにとどまらず、相手の考えを自分の考えと比べながら聞いて、互いの考えを深めていく必要がある。</p> <p>&lt;授業&gt;</p> <p>既習事項や日常生活と結び付けながら、児童が自ら学習課題を見出し追究したり解決したりする学習過程を見通した単元づくりを工夫している。児童の振り返りから、理解できていない児童の実態を把握して、授業づくりを行っている。教科や単元のねらい、内容、系統性など「何を学ぶのか」を明確にした教材研究ノートを作成することを続け、基礎的な力を付けるとともに、問われている問題の意図を捉える力、活用をつけていくことが課題である。</p>
--

育成する資質・能力	主体的に学ぶ力	思考力・判断力・表現力	自己形成力	
めざす子ども像	小1～小4	日常生活をよくするために、生活体験などの情報を生かし、様々な課題に意欲的に取り組むことができる。	自分の考えを持ち、相手意識を持って、話したり書いたりして表現している。	思いやりの心を持ち、目標を達成するために、協力し合い、粘り強く努力している。
	小5～中1	日常生活や地域社会をよりよくするために、学ぶことに対し自分で価値を見出し、様々な課題に意欲的に取り組むことができる。	日常生活や地域社会をよりよくするために、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書く等で表現している。	日常生活や地域社会をよりよくするために、相手のことを思いやりながら目標を決めて、最後までやり遂げようとする。
	中2～中3	社会をよりよくするために、学ぶことに対し自分で価値を見出し、様々な課題に自発的・能動的に取り組むことができる。	社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を工夫しながら表現している。	誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やり抜いている。
研究	テーマ	主体的に課題を追究し、共に高まる児童の育成～児童同士が対話を繰り返す授業を通して～		
	内容等	① 教材研究・・・教科・単元のねらいや内容、系統性を明確にした単元づくりを行う ② 資料提示や効果的な体験活動の工夫・・・単元のねらいに沿った資料の活用をしたり、見学のねらいを体験活動を設定したりする。 ③ 児童の振り返りと授業改善・・・児童一人一人が本時の学習を言語化し、それに基づいて授業改善を行う		
めざす授業の姿	興味を持たせるために授業の導入を工夫し、既習事項を活用して考えられる授業 社会的な事象について読み取ったことなどを児童同士が話し合う授業 資料の提示や教師の発問によって問いが生まれる授業			

12) 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 金江小学校

年 目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
5	主体的な学びの授業づくりを進め、学ぶ意欲と学力の向上を図る。	★	見直し	主体的、協働的に学ぶことができる授業づくりを行い、学力を向上させる。  学校図書館を活用し、多様な種類の本に触れ、読書量を増やす。	・ねらいや内容、系統性を明確にした単元づくりを行う。	・学期末テスト(1・2年国算2教科、3～6年国算社理4教科)の「知識・技能」で平均80点以上								
					・主体的に学ぶ場、自分の言葉で表現する場を設定した授業を行う。	・「友達の考えを聞いたり話し合ったりして学びを深めている」児童80%以上								
5	児童の自己肯定感と自己有用感を向上させ、自己形成力を育成する。		継続	生活習慣を確立し自分から進んで行動する児童を育成する。  相手を大切にす る行動や言葉を使うことができる児童を育成する。	・児童主体の係活動や委員会活動・学校行事を充実させる。	・「活動を通して、自分が成長したと感じる」児童85%以上								
					・返事や反応をしながら友達の話を聞くなど話しやすい環境をつくる。	・「返事や反応をしながら友達の話を聞いている」児童を80%以上								
2	地域とともにある学校づくりを推進する。	★	継続	保護者や地域と連携した教育活動を展開する。	・地域の実態を生かし、観察や見学、聞き取りな	・地域学習として全学年が地域に出かけ、地域のことを学ぶ。(年1回								

(3)

				ど の調査活動を行 ったり、地域の 方 を招いたりして 学 ぶ機会をつく る。	以上) ・感謝の会を企画し て、地域の方との ふれあいの場を設 定する。										
5	教職員の資 質・能力の向 上を図る。	見 直 し	子供の学びを促 す授業力を向上 させる。  学校における働 き方改革の取組 を進め、教職員 が元気で生き生 きと勤務できる 環境を作る。	・教材研究と児 童理解に基づい た授業を行い、 教材研究日に互 いの教材研究ノ ートを交流し合 う。  ・「困っていない ですか」等の 声かけをし、 「ありがとう」 の感謝を声に出 して伝えること のできる職員室 にする。	・教材研究を進め、 教材研究ノート を作成し、実践し、 改善につなげている 教職員100%  ・「互いに助け合 える職場である」と 感じる教職員100 %										

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。